

世界の国に親しもう

はじめに

現代社会において、地球規模で抱える課題は増加する一方である。したがって、未来の社会を担う子どもたちが日本だけではなく世界の諸情勢に目を向け、協力して解決しようとする意欲をもつことは必要不可欠である。また、外国にルーツがある児童生徒が増加しており、学校現場においてもグローバル化が進んでいる。このような現代を生きる上で、他国の人々や文化に対する理解と尊重する態度を養うことは、小学校段階においても求められている。

しかし、小学校低学年という発達段階において、世界を見渡すような広い視野をもつことは難しい。また、外国に関する知識や興味関心には、生活経験によって差が生じることが多い。そのため、本教材では、自分の身近なところから徐々に視野を広げ、誰もが自分と世界とのつながりを感じ、外国の人々や文化に親しみをもち、ことをねらいとした。本教材が、児童が世界の国々に興味をもつ一つのきっかけになることを願う。

この教材の使い方・参加のルール

この教材は、小学校1年生・2年生の発達段階の児童を対象としている。

「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳」で述べられている通り、小学校低学年という発達段階では、身の回りの事物が自国の文化なのか他国の文化なのかを明確に区別することは難しい。特に、他国の人々に対しての触れ合いについては、生活経験の差などから、消極的になってしまう児童もいると考えられる。したがって、「世界の人々の生活」を大きなテーマとして設定し、自分たちの生活と比べながら考え、同じところや違うところばかりに目が向かないように、素敵だと思ったところや良いと思ったところ等を積極的に授業の中でひろうことを大切にする。また、可能な限り自らの生活と世界がつながっていることを実感できる活動を設定し、中学年や高学年の学習に向けて、様々な国の文化について知りたいという意欲をもたせることを大きな目的としたい。

全体のねらい

- ・自分と外国がつながっているという実感から世界の国に興味関心をもち、他国の国の文化に親しもうとする道徳的心情を育てる。
- ・他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うようにするために、違いにばかり着目せず、似ているところや良いなと思うところなどを見つけさせ、世界の国についてさらに知りたいという意欲をもたせる。

アクティビティ1 「“いいな”と“すてき”でつながろう」

●概要

外国の暮らしがわかる写真や動画を見て、“いいな”や“すてき”と思ったところを友達と共有する。

●ねらい

- ・他国の文化や生活を知り、他国の文化に親しみをもつ。
- ・違いだけではなく、良いなと思ったことや素敵だと感じたことを友達と共有し、世界の国について知りたいという意欲をもつ。

●主な対象

小学校1～2年生

●用意するもの

- ・投影用PDF①（P60）（写真部分を印刷して使っても良い）
- ・関連する動画：今回は研修参加者が撮影したものを投影したが、扱うテーマに合わせて一般に利用が許可されている関連動画を使用する。
- ・リアクションカード（P59）（印刷して切ったものを割り箸などに貼り付けて使用する）：グループ数分
- ・ワークシート①（P61）：全員分

●所要時間

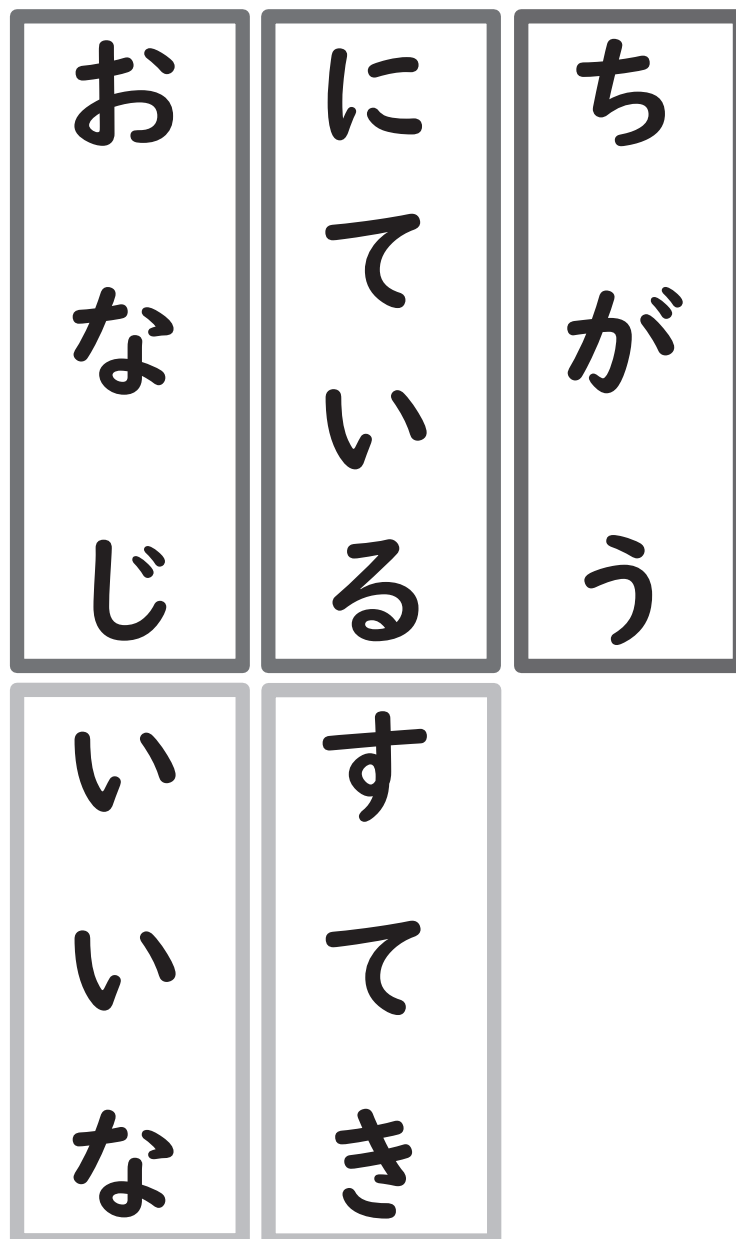
15分～

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 4～5人の班をつくる。リアクションカードを各班に1セットずつ配布する。	外国にルーツがある児童と外国にあまり接点のない児童が交流できるように班の分け方を工夫する。
2. リアクションカードの使い方を説明する。 ・これから見せる写真について、自分たちの生活と似ていると思ったら「にている」、同じだと思ったら「おなじ」、自分たちの生活と違うと思ったら「ちがう」のカードをあげる。 ・さらに、素敵だなと感じたり、良いなと思ったら「すてき」や「いいな」のカードをあげる。 ・友達がどのカードをあげているか、確認しながら活動する。	活動中は、どのカードを出しても良いこと、感じたことを友達と話して良いことを伝える。

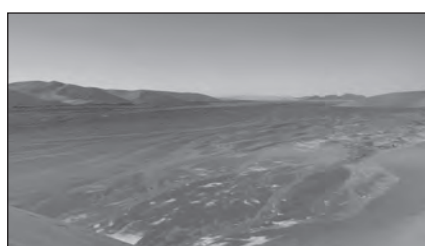
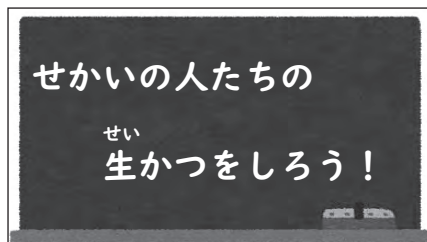
3. PDF①を投影する（印刷した場合は見せたあとに黒板に貼っていく）。児童は1つ1つの写真で感じたリアクションカードを挙げていく。 4. 一番心に残ったことを発表する。	写真を見て感じたことだけではなく、友達と活動したことで分かったことや感じたことを発表してもよいことを伝える。
ふり返し ワークシート①に感想を書く。	児童が自由にふり返りができるように、書きやすい形で書いて良いことを伝える。（文章でまとめることが難しい児童や1年生は、吹き出しと顔の表情で表して良い、など）

リアクションカード見本



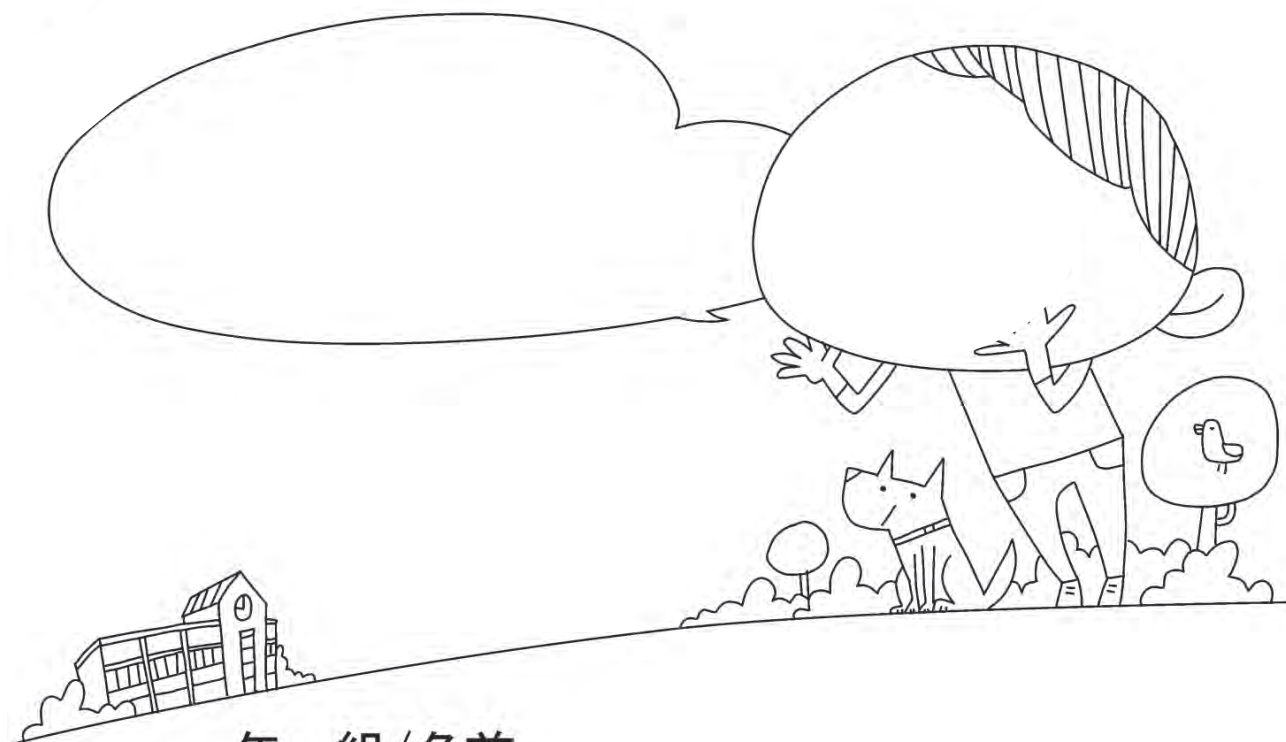
PDF①（見本）

※データはウェブ上からダウンロードしてください。



ワークシート①

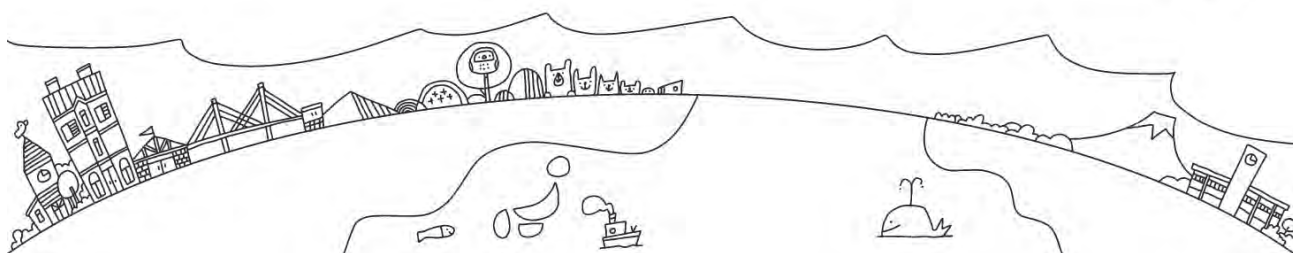
しゃしん や どうが をみて かんじたことをかこう。



年 組/名前

ふりかえり

より



アクティビティ2 「服はどこで作られている？」

●概要

自分が着ている服のタグを確認して、生産国がどこなのかを世界地図で確認する。

●ねらい

身の回りにも世界とつながっているものがあることを知り、世界の国に興味感心をもつ。

●主な対象

小学校1～2年生

●用意するもの

- ・世界地図（教室で使用する大きいもの）
- ・体操服や制服など子どもたち全員に共通する衣類
- ・服や帽子など（日常的に使用している衣類）
※制服の学校で行う場合は、家から私服を持参するなど工夫する。

●所要時間

10分～

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. 教師の服の生産地について全員で考える。 「先生の服はどこで作られたでしょう？日本かな？外国かな？」	小学校低学年であることから、答えを「日本」か「外国」かの二択にし、全員が答えることができるようにする。 ※パワーポイント等を使って分かりやすく解説しても良い。（パワーポイント見本参照）
2. 自身の衣服の生産地について全員で考える。 「みんなの体操服はどこで作られたでしょう？日本かな？外国かな？」	その場で、服のタグを読み、生産地の場所を世界地図で確認する。
3. ここからペア活動を取り入れる。 「自分たちが着ている服は、どこで作られたでしょう？」	ペアでお互いのタグを確認するとよい。
4. 服の生産地を世界地図で確認する。 「タグに書いてある国がどこにあるか世界地図で確認しよう。」	日本との距離や、世界のどこに位置しているかがわかるように磁石やシールを用いて場所を明確にする。 ※世界地図を印刷して配布し、子どもたち自身が探すのもよい。

5. 自分たちの服を作っている国がどんな国なのか、想像してみよう。	児童同士が知っている知識を出し合い、外国の生活などに興味をもつことができるようにする。
ふり返し	

パワーポイント見本

せんせい の ふくは、どこでつくられたでしょう？



？

？

1 にほん 日本 

2 がいこく 外国 

せんせいのふくが つくられた くには...



ベトナム

インドネシア

1 にほん 日本 

2 がいこく 外国 

ながそで



にほん 日本 

にほん 日本 

ながズボン

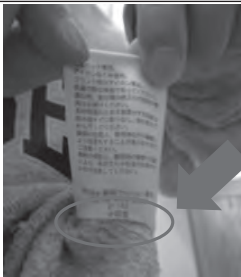
はんそで



ちゅうごく 中国 

はんズボン

にほん 日本 



せかいの人たちは、
せい
どんな生かっをしているの？



参考文献・引用資料

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳 平成29年7月告示 文部科学省

実践事例報告

プログラム作成・実践者

田淵 野藍

学 校 名

大田市立静間小学校

担当教科

全教科

実践教科

特別な教科 道徳・国際理解 国際親善

単 元 名

「国際的なつながり」〈C-16国際理解、国際親善〉

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ：「せかいはつながっている」

(2) 単元のねらい

他国の文化にふれ、他の国々の人々やその国の文化に親しもうとする道徳的心情を育てる。

(3) 概 要

導入としてアクティビティ2を行った。本時の道徳的価値について問題意識を高めるために、体操服や自分の服がどこで作られているのかを知り、身の回りにも世界とつながっているものがあることを知る。その後、「私たちの服を作ってくれた人は、どんな生活をしているだろう？」「作ってくれている人たちのことを知らなくていいのかな？」と問い掛け、自らの道徳的価値についてのとらえ方を表面化させ、本時のめあてにつなげる。

次の展開でアクティビティ1を行った。ナミビア共和国の写真をもとに、衣食住には日本と似ているものや違っているものがあることを見つけ、外国の文化に興味をもつことができるようにする。その際に、動画や写真を見ながら感じたことをいろいろな形で表現できるようにリアクションカードを用意する。また、実際にナミブ砂漠の砂や外貨に触れることで、外国の生活が具体的に想像できるようにする。そして、ナミビア共和国だけではなく、図書館の本を使って様々な国の衣食住の文化について自由に調べることができるようにする。その際に、児童同士で意見を交換しながら様々な国の文化について興味をもつことができるように、グループワークを取り入れる。

使用する本については、事前に司書教諭と学校司書に相談し、低学年でも内容が理解でき、実際の様子が写真から分かるものを選んだ。グループワークの中で、気になった国や良いなと思った国のページにふせんを貼り、全体でも共有できるようにする。そして、世界のことについてもっとたくさんのことを知りたいという意欲をもたせる。また、教師から、世界にはたくさんの国があり、衣食住、遊びもそれぞれの国の特徴があることを紹介し、興味関心をもたせる。

本時の終末では、自分をふりかえる場面を設けた。教材から離れ、自分の生活をふり返り、道徳的実践意欲につなげるために「今日の授業を通して、どんなことを考えたり感じたりしましたか。」と問う。ここではワークシートを活用して書く活動を取り入れる（ワークシートを使うことで自身の考えとじっくり向き合わせる）。書くことが難しい児童については、個別に聞き取りを行い、教師が代筆をする。

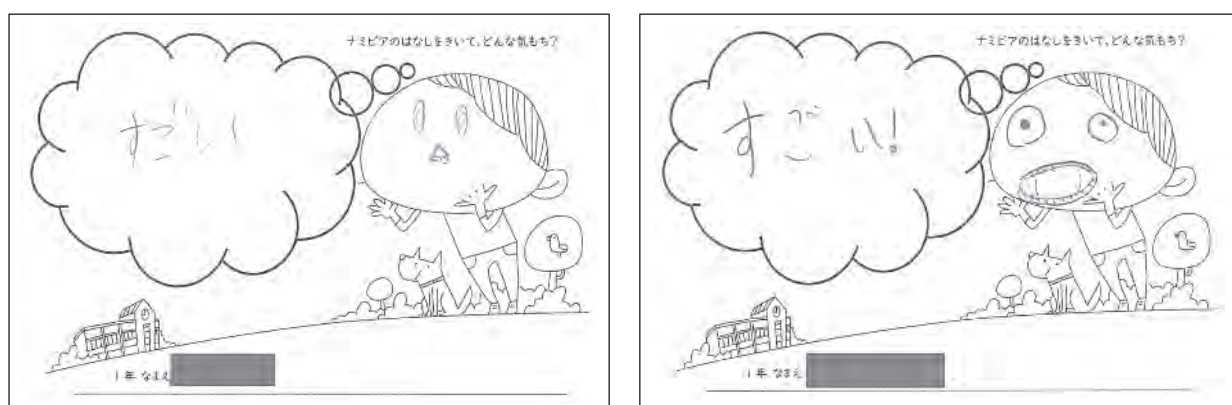
(4) 指導上の留意点

導入のアクティビティ2では、発達段階や生活経験の差を鑑み、全員が興味をもって学習活動を行うことができるように、2択のクイズ形式にする。また、「外国」という言葉の意味について、共通

理解を図る。また、言葉でなかなか表現できない児童も自分の考えを自由に表現することができるように、自分の気持ちの状態を顔の表情で表すワークシートを用意する。司書教諭や学校司書と相談して選んだ本は、授業後も児童が自由に読むことができるように教室に置いておく。

(5) 児童の感想・学び・気づき

- ・日本とちがっていたナミビアを知ることができて、すごいなと思いました。
- ・日本とナミビアのペットボトルのラベルもちがってびっくりしました。ナミビアには日本にはいない動物がいたので、もっと知りたいです。
- ・日本にもすごいものはあるけど、ほかの国にもいろいろなすごいものがあることを知ることができました。
- ・いろいろな食べ物や日本とちがうお金があることを知ることができました。とても面白かったです。
- ・日本ではないところをはじめてたくさんわかりました。とても楽しい気持ちになりました。



児童のふり返しワークシート

(6) 児童の様子



【授業実践をした上での感想・ふり返し】

今回の授業では世界の国々について少しでも興味関心をもち、親しみをもつことを目標として行った。実際に授業後の学校生活では、児童が「今日の服はカンボジアだ。カンボジアってどこにある国ですか。」と私に質問したり、教室に置いてある授業で取り扱った本を朝の読書時間に読んだり、興味関心をもつ姿が見られた。また、世界地図を教室に掲示すると、学習で出た国やテレビで見た国を地図で確認したり、季節の行事ごとに外国との違いを知りたいと思ったりと世界の国々に対して自分から知ろうとする児童が増えた。外国に対する知識や経験が浅い小学校低学年であるからこそ、自分が着ている服をきっかけとして、授業を展開したことは良かったのではないかとふり返る。

また、あえてその国の一般的なイメージについて授業の中で触れず、児童が感じたことを大切にすることは、児童の興味関心の幅に制限をかけることなく取り組むことができたことにつながったと思う。

また、司書教諭や学校司書と協力し取り扱う本を選んだことで、より子どもたちの興味関心を引き出すことができたのではないかと感じる。

今回の実践を通して、特別の教科道徳における内容項目「国際理解・国際親善」の授業内容について改めて考えた。子どもたちにとっては、他人事になりやすい内容項目であるからこそ、自分事として考えることに繋げていくためには、小学校低学年段階から、世界について興味関心をもつことが必要ではないかと感じた。